クビアカツヤカミキリ防除講習会に係るＱ&Ａ

堺市環境共生課

1. 特徴・生態

Ｑ１ どのような生態ですか？

Ａ１ 6 月上旬頃から樹木の外に現れ、交尾・産卵して一生を終えます。樹皮の割れ目などに産み付けられた卵が、孵化し幼虫となって樹皮下へ侵入し、2 年間内部を食い荒らし、蛹を経て、成虫となります。

Ｑ２ 成虫は、どれぐらい卵を産みますか？

Ａ２ 平均 300 個前後、最大で 1,000 個の卵を産むという報告があります。

Ｑ３ １本の木に何匹幼虫はいますか？

Ａ３ 被害の状況によって大きく異なりますが、進行すれば数十匹以上に及ぶこともあると考えられます。

Ｑ４ 幼虫は樹木内部でどのように移動しますか？

Ａ４ 移動する方向については、栄養分が豊富な形成層の周辺を上下左右、さらには中心部へと不規則に食べ進みます。

2. 捕殺

Ｑ５ ネット内の成虫の具体的な捕殺の仕方は？

Ａ５ その場で踏みつぶすなどの直接的な方法と対象として登録のある薬剤（農薬）を直接噴射する方法があります。

Ｑ６薬剤を使わず、樹木内の幼虫を駆除する方法はありますか？

Ａ６ 新しいフラスが出ている孔を特定し、孔のつまりを取り除いて、孔に針金を通して刺して駆除する「刺殺（しさつ）」があります。

３．防除

Ｑ７ 樹木の点検のポイントはありますか？

Ａ７ 最も確実な目印は、幼虫が排出する「フラス（木くずと糞の混合物）」です。
重点的に見る場所としては、「樹幹の下部（目線より低い位置）」や「地際の根元」、「枝の二股部分」です。また、幹から離れた地面などにフラスが落ちている場合は、真上の枝や幹、露出した側根を確認します。

Ｑ８ 樹液が大量に出ているときの点検ポイントは？

Ａ８ 樹液とフラスが混じっていないか確認し、混じっていない場合でも何か所も大量に出ている時は、被害を受けている可能性を考慮し、注意深く観察する必要があります。

Ｑ９ 2メートル程度の高さまでネットを巻いても、その上は大丈夫ですか？

Ａ９ ネットを巻いていない部分で被害が発生する可能性はあります。ただ、樹皮が平滑な高い位置の若枝などへの産卵は比較的少ないとされています。このことから、最も狙われやすく、かつ樹木の生存に致命的なダメージを与える幹の低い部分を守ることが非常に有効となります。

Q10 ネットを巻いていれば、成虫が抜け出すことはないですか？

A10 「絶対に抜け出さない」というわけではありませんが、ネット巻きは木の中から出てくる成虫が飛翔や拡散を防止するために非常に有効な手段です。

Q11 ネットを巻くのに適した時期はいつですか？

A11 ネットを樹木に巻くのに適した時期は、成虫が活動を始める前の4月から5月とされています。

Q12 ネットの目合いはどれぐらいの大きさが最適ですか？

A12 ネットの目合いは、0.4mm～4.0mm程度のものが最適とされています。

Q13 ネットを巻く際にどのくらいの隙間が必要ですか？

A13 樹幹とネットの間には、少なくとも「親指大（約３ｃｍ～4ｃｍ）」の隙間を作ることが推奨されています。これにより、成虫がネットを噛み切ることや飛来してきた成虫による産卵を防ぐことができます。

４．駆除

Q14 薬剤の注入後、フラスの発生が止まりました。もうフラスがでることはないですか？

A14 フラスが一旦止まったとしても、完全に幼虫を駆除できたとは限らず、再び発生する可能性があります。防除した場所以外から後に新たなフラスが発生されるケースもあり、継続的な確認が不可欠です。

Q15 脱出予定孔を封鎖する具体的な方法は？

A15 脱出予定孔から、さらに奥にある幼虫・蛹室（蛹の部屋）へと続く道を確認し、被膜資材を使って奥から順に隙間なく埋めていきます。最後に、脱出予定孔の表面にフタをするように仕上げます。硬めの資材を使用することで高い確率で成虫が出ることを防ぐことができます。

５．薬剤

Q16 防除には、どのような手法が使われていますか？

A16 薬剤には幼虫を対象としたものと、成虫を対象としたものとがあります。樹種によって使用可能な薬剤が定められていますので、確認して使用することが必要です。

幼虫を対象とする場合、フラス排出孔へノズルを差し込み、あふれるまで薬液を注入するものや、地際部にドリルで穴を開け、薬剤を注入して樹木全体に染み渡らせるものがあります。

成虫を対象とする場合、幹や枝に薬剤を散布し成虫の殺虫や産卵を阻止する樹幹散布（薬剤散布）と成虫に直接噴射して殺虫する直接噴射（薬剤噴射）とがあります。

Q17 どこで薬剤を購入できますか？

A17 薬剤については、園芸用品を扱うホームセンターなどで購入することが可能です。農薬取締法に基づき、樹種ごとに登録された薬剤を使用する必要があります。

Q18 薬剤（農薬）を使用するときの注意点はありますか？

A18 基本的なルールとして、農薬ラベル（適用表）を確認し、そこに記載された使用方法や希釈倍数、注意事項を厳守することが義務付けられています。また、作業者の安全を守るため、ゴーグルやマスク、ゴム手袋などの保護具の着用が必須です。

Q19 具体的な薬剤名を教えてもらえませんか？

A19 使用できる薬剤は、樹種や使用方法によって厳格に定められています。
薬剤については、「クビアカツヤカミキリ被害対策の手引き」（地方独立行政法人大阪地方環境農林水産総合研究所　発行）を参考にしてください。

地方独立行政法人　大阪環境農林水産総合研究所ホームページ

https://www.knsk-osaka.jp/kankyo/gijutsu/aromia/index.html

６．伐採

Q20 枯れていなくても伐採を検討すべきですか？

A20 まだ、枯れていなくても、被害の状況や周囲への影響を考慮した検討が必要な場合があります。
被害を受け枯死・衰弱した木は、強風などにより倒木や落枝が発生しやすくなることから早期伐採を検討ください。同じ種類の若木を植えた場合、再び被害を受ける可能性があるため、継続した防除対策が必要となります。

Q21 幼虫がいる時期でも伐採して大丈夫ですか？

A21 「幼虫がいるかどうか」よりも、「成虫が外に出てくる時期かどうか」で伐採時期を選ぶ必要があります。成虫が発生しない９月～翌年４月までの間に伐採を行うのが最適です。ただし、倒木や落枝の危険がある場合は、早期に伐採を検討してください。

Q22 伐採しても根が残ります、そのままにして大丈夫ですか？

A22 幼虫は、地際の根の付近や根の中まで入り込んでいることがあります。切り株や根の中に幼虫が残る可能性があるため、そのまま放置しておく場合、注意が必要です。

Q23 切り株への対策は必要ですか？

A23 切り株から成虫が出てくるのを防ぐため、厚手のビニールシートやネットを二重に巻いて切り株全体を覆い完全に密閉する必要があります。この対策を切り株内の幼虫がすべて成虫になって死滅するまでの約２年間は継続する必要があります。

７．その他

Q24 近隣のサクラを守るために、個人でできることはありますか？

A24 近隣のサクラを守るため、「フラスがないかこまめにチェックする」「成虫を見つけたら逃がさず殺す」という２点を意識していただくことです。

Q25 緑道のサクラなどにフラスがでていて、そこから被害が拡がっていると感じます。公園や街路樹等の防除対策を強化すべきではないですか？

A25 緑道や公園、街路樹といった公共の場所にある樹木は、発生源になりやすく、地域全体の被害拡大を防ぐうえで極めて重要です。
　堺市では令和７年度から５か年で集中防除を行う計画をすすめており、市が管理するすべてのサクラ等の点検を実施し、予防措置や被害状況に応じた必要な措置を行うこととしています。